フランス文学研究室 NEWS

平成 27 年 3 月 31 日
第 3 号

この号の内容

1 刊行の辞
2 イベント報告
3 在学生数
4 卒業生進路
5 学部生の声
6 就職活動記
7 一年を振り返って
8 留学生だより
9 大学院生の声
10 留学中の OG より
11 編集後記
12 ホームページ紹介

刊行の辞

2013 年 3 月から毎年発行しておりますこの新聞も，早くも第 3 号となりました．その間編集を務めさせて頂いた私は修士 2 年，今春修了致します．卒業にあたり編集担当は後輩の玉田優花子さんへと引き継ぎ，今回から仕事を任せて悠々自適な日々を送っておりました．

さて，編集が変わるということは新聞の趣も少なからず変わってくることと思います．女の子らしい視点から立案された新たな企画に，思わず感心させられることでしょう．

石の上にも三年．1 号限りと思われたこの新聞も，どうにか 3 年目を迎え足跡を残すことができました．始めることも大変ですが，それを続けることにも苦難が伴います．更に 3 年，踏ん張ってもらい，歩み続けてもらえればと願っております．　　（修士 2 年　佐藤亮太）

イベント報告

2015 年 1 月 10 日　**《 Séminaire Samuel Beckett et la culture française 》**
ヤン・メヴェル先生主催　Thomas Hunkeler 先生，Stéphanie Smadja 先生講演

2014 年 7 月 25 日　**「残るものと消え去るもの―十七世紀以前のフランス語劇テクストの制作・上演・伝承」　研究発表，レクチャー・コンサート―モリエールと十七世紀フランス音楽―**
研究室主催　川那部和恵先生，黒岩卓先生，伊藤玄吾先生，秋山伸子先生講演

2014 年 5 月 1 日　**「ポール・ヴァレリー《アポロンの巫女》を読む」**
仏文研究室主催　ウィリアム・マルクス先生講演

在学生数

博士後期課程　3 名
博士前期課程　4 名

学部 4 年　8 名
学部 3 年　2 名
学部 2 年　4 名

平成 26 年度卒業生進路

就職
株式会社ベーシック　Gyao
キョードー東北　七十七銀行

進学
東北大学博士前期課程 2 名

学部生の声

カンタータ『カルミナ・ブラーナ』．名前だけではピンとこない方も，最近はテレビで BGM などに使用されることも多いので，きっと一度はこの曲を耳にしたことがおありだと思います．私にとっては，高校の音楽の授業で出合ってからというもの，生で演奏を聴いてみたいとずっと願っていた曲の一つでした．それが偶然にも，昨年末，交響楽団による演奏で聴く機会を得ました．

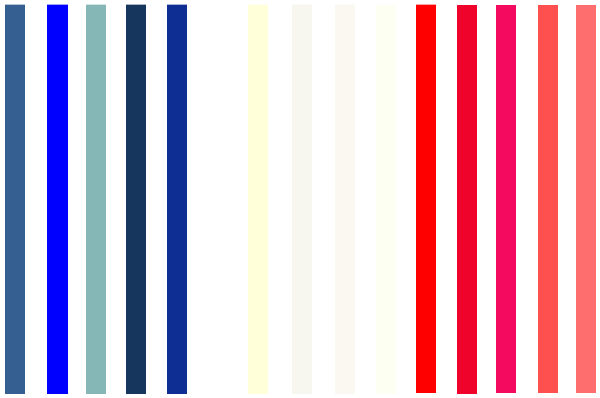
さて，高校の授業では鑑賞しただけだったので，私にはこの曲の知識はほとんどなく，曲調から勝手にドイツの歌曲だと思い込んでいました．だからより演奏会を楽しめるように，曲について下調べをしていました．すると，私が今回聴く『カルミナ・ブラーナ』の音楽は，たしかに 1936 年にドイツの作曲家によって作られたものであることが判明しました．

しかし，歌詞には主にラテン語，部分的に中高ドイツ語や古フランス語が用いられていること，なぜなら，その歌詞はそれらの言葉によって書かれた詩歌集を基にしているからであることもわかりました．その詩歌集の一部は放浪学生や放浪詩人が書いたとされていて，書かれた時期は 11 世紀から 13 世紀の間と推測されています．古フランス語も用いられていることから，トゥルバドゥールやトゥルヴェールによる詩が含まれているかもしれません．

つまり，『カルミナ・ブラーナ』にはフランス語・フランス文学に関係する部分もあるようなのです．演奏会の曲目について調べていたら，それが自分の専修の分野につながっていたのです．このことはまったくの予想外でした．身の回りに目を向けることでフランス語・文学を発見することもあるのだといういい勉強になったと思います．

（学部 2 年　高橋眞惟）

トリコロール色見本



飲み会で楽しげな人の色
帰り道、寒さでかじかんだ指先の色
機嫌の悪いときにあえて塗る口紅の色
好きな人の色
le peuple est en colère（Les Misérables ミュージカル歌詞より）
新セメスターにあわせて買った、新品ノートの一ページ目の色
四年間お世話になった辞書のカバーの色
思い出を映すスクリーンの色
コピー機から出てきたばかりであたたかい紙の色
心が真っ白で綺麗な子になりたかったけどなれなかった……
ずっと探していた本の背表紙の色
むかしむかし、町といなかに、大きなやしきをかまえていた男のひげの色
予習してもよく分からなかったところを当てられた時の自分の顔色
意外においしい百味ビーンズの色
高校時代の制服の色。若かった色。

（学部四年　猪飼綾、舘田みさき、玉田優花子、千葉英里）

就職活動記　就職活動を乗り越える力

就職活動では，学生時代の豊かな経験，学力，コミュニケーション能力など学生の様々な力が企業から求められます．就職活動で必要な力は数多くありますが，私が思う「就活での力」を述べたいと思います．

私は，就職活動では，自分の芯の強さが必要だと思います．この業界で働きたい，年収が○×万円以上の企業がいい，というような企業選択の際の「芯」と，就職活動中の自分を支える精神的な「芯」の強さです．前者については，就職活動を進めるうちに自ずと見えてくるものだと思います．後者の精神的な芯ですが，こちらが結構大事なのではないかと思います．

私は自分自身に落ち込む事が多々ありました．企業説明会などに行っても，私はこの就活を乗り越えられるのかという不安な気持ちばかり感じ，マニュアル本や大手就活サイトを見ては，「内定のためにする事」などという謳い文句の情報ばかり目に入り，それと自分を比較しては焦りを感じる日々でした．

しかし，その中でも私は「自分は自分」という気持ちを忘れる事はなかったように感じます．マニュアル本通りの就活をして内定を得ても，それは企業が自分自身ではなく，仮面をつけた自分を評価してくれた結果です．飾らない，素直な自分で考え行動し，その自分を見てくれる企業に就職する事がきっと一番だと思います．自分に自信を持って，ありのままの自分でいいんだと，ある意味開き直るような強い気持ちを持つ事が，就職活動での私の力だったかな，と今はしみじみ感じています．　（学部４年　千葉英里）

映画上映会：研究室のメンバーの交流をより深めるため，2015 年 1 月より，映画上映会を行っています．研究助手・白石冬人さんの呼びかけで始まったこの上映会，これまで「黒いスーツを着た男」，「チキンとプラム～あるバイオリン弾きの夢」を鑑賞しました．「家族と寛いで観るのでなく，映画館でポップコーン片手に観るのでなく，恋人と寄り添って観るのでなく，『研究室で』『数人と』観ることの妙味は，参加した人だけが味わうことのできる特権です」（学部３年　田中華奈）今後も継続していきますので，他専修の方，また１年生の方も気軽にご参加ください．参加希望は本紙４ページ記載の研究室のアドレスまで．

一年を振り返って

一年，また一年と過ごすうちに時間の流れがだんだんと速くなるように思えます．学部 3 年生として過ごした一年も，あっという間のものに感じられました．自分がすごしてきた時間をゆっくり振り返ることが最近あまりなかったので，一度立ち止まってこの一年間を振り返ってみようと思います．

この一年は，新しく経験することもあればおわりを迎えることもありました．4 月には研究室に後輩ができ，早速自分は大学生活の半分を終えてしまったのだということを実感しました．5 月からは，自分が志望している公務員試験の勉強も始まり，夜 9 時まで学校にいることも増えました．また，学業と試験勉強が本格化していくことを感じ，力を入れる事柄を絞ろうと考えるようになりました．私は学友会の軽音部に入っていたのですが，大学祭を最後にと決めて最初で最後の野外ステージに立ちました．そして夜遅くまで学校にいる生活にも少しずつ慣れ，実家と仙台をあわただしく行ったり来たりしながら今に至ります．

こうして振り返ってみると自分が興味を持っているフランス文学について知識を深めたり発見をしたりという時間が少ない一年だったと痛感しています．春休みは少し時間を作ってゆっくり本を読むなどしてみてもいいかなとも考えています．大学生活も残すところあと一年と少し，となりました．4 月からは就職活動も始まり，加えて卒論の作成も行うこととなり，ますます忙しくなるでしょう．何事も悔いなく終えることができるように全力を尽くしてすごしたいと思っています．

（学部３年　渡辺理沙）

留学生だより （フランス・リヨン第二大学）

私は 2014 年の 9 月から約 1 年間，リヨン第 2 大学に交換留学しています．リヨンに着いたばかりの頃，その気候の良さに心が躍りました．空は真っ青に晴れわたり太陽がとても高くで照り，空気はカラッと乾いていてとても過ごしやすいのです．2 本の川はきらきら輝き，丘からはフルヴィエール大聖堂がこちらを見下ろしています．街を歩くと，カフェのテラス席でお喋りを楽しむ人々や，その辺の芝生で寝転がって読書したり昼寝したりしている人々が見受けられます．フランス人は太陽が好きなようです．

街中では道を尋ねられることがよくあります．リヨンで暮らし始めて間もない頃からです．明らかに外国人である私になぜ尋ねるのか疑問ではありますが，初めは全く答えられなかったのにある時答えることができ，その時はかなり嬉しく感じました．こんなこともあり，私も分からないことはその辺の人にバンバン聞くようになりました．

▲ 光の祭典．このお祭りを通して，フランス人の心の広さと優しさに触れました．寒い寒いと騒いでいたら、自分も寒いはずなのに上着やマフラーを脱いで貸してくれるのです．

◀ 旧市街のブション．店員のおじさんがとても愉快で，何回か行くうちに顔を覚えてくれ仲良くなりました．

授業については，人数制限があって断られたりと少し大変なこともありましたが，自分の興味のある授業を見つけ受講できています．録音したり，友達にノートを借りたりして，ついていくことに必死ですが，それでも集中して耳を傾け，単語を拾って考え，理解できた瞬間はとても楽しいです．

留学期間も折り返し地点を過ぎてしまいました．これまでの 5 か月は人生で最も長かった 5 ヶ月でした．ある先生が「1 年留学したら 3 年分の価値がある」とおっしゃっていたのをしみじみと実感しています．今，色々な体験を通して様々な「自分」と向き合っているように思います．残りの留学生活も勉強はもちろん，それ以外でも今しか経験できないことをたっぷり経験して，唯一無二な私の留学生活を楽しもうと思います．

（学部 4 年　山本千春）

大学院生の声　はじめての論文執筆

「修士 1 年だけど紀要に論文をかいてみないか」と先生に提案していただいたのは，まだ研究を続けるべきかどうか迷っていた夏だった．当時はその重大さをよく知らず「卒業論文をうまくまとめる感じで！」という軽いノリで引き受けた．

夏期休暇に入り論文準備の生活が始まった．連日朝から夕方まで肉体労働バイトをしてその後勉強した．にわかに「単なる卒論のまとめではいけない」ような少しヤバい感じがしてきてそれなりの準備の必要性を感じる．肉体労働で両手腱鞘炎になりバイトは休めても論文準備は休めなかった．

自分なりに展開させた内容で締切 10 月 9 日になんとか提出した．この瞬間全てを忘れようとした．その後査読結果が届けられ，手厳しいコメントから心のままに目を背け数週間ほったらかした．修正点の量や準備＆経験不足，授業と週 3～4 バイトをこなして論文を修正するのは「マジで無理」だと限界を感じ，先生に「論文無理ですすみません！」という内容のメールを丁寧かつ危機感溢れる文面で送った．でも「途中で諦めるのは許されないと思います」と厳しい返事を受けた．年末は研究室で過ごした．研究室の冷蔵庫のビールは僕が飲みました．前年末も卒論執筆で似た感じだった．荒む心．

年明け再提出期限を大幅に踏み倒し，先生に全面的に協力していただいたおかげで，一応それなりの形で論文を提出した．修士 1 年の生活での論文執筆はとても苦しい．修士の身分で，博士課程で受けるべき過酷な業を経験できてすごく価値ある半年だった．

（修士 1 年　吉川真太郎）

留学中の OG より （ベルギー・リエージュ大学）

フランス語圏のフランス以外の国で生活してみたいというひそかな好奇心もあって，ベルギーのリエージュ大学に留学しています．文学を勉強しているからというよりも，ここでは生活の中で日々感じるためか，ことばの問題についつい考えてしまいます．耳にするフランス語は，文法に関しては日本で習ったものとほぼ同じですが，単語や発音には違いがあります．特に最初戸惑ったのは《 humanité 》(=secondaire) や《 A tantôt! 》(=A tout à l’heure!) や《 promoteur 》(=directeur de recherche) などです．公用語が 3 つあるため，エラスムス・プログラムの国内版，「違う言語圏でのメンタリティーを理解」するための短期滞在プログラムが大学にあり，就職のために習慣の違いや他の言語を学ぶ研修も開かれています．ほかの多言語国家と違うのはオランダ語系のフラマンとフランス語系のワロンがちょうど半数に分裂しているところでしょうか．ほぼ単一言語・単一民族の国で 20 年以上暮らしてきたわたしにはどうしても不思議で，「それにしても地域が分かれていてどうしてやっていけるの？」と率直に友人に聞いてみても肩をすくめて《 C’est triste 》と言うだけです．またこの二言語は系統も違い学びにくいので，「向こう側」の人と話すときは英語が共通語になることもあります．その分，唯一の言語が国をまとめるわけではないからか，リエージュの人はうまく話せない外国人に対しても概して寛大で辛抱強く話を聞きますし，やっていけるのはベルギーだからなのかもしれません．人々はみな穏やかでのんびりしており，こちらが驚くほど親切で，個性が強い人よりも安定感のある人が多いような気がします．そうかといってリエージュ気質は物静かさとはほど遠いようで，談笑するのが好きなのはもちろん，おそらくどこの町にもあるだろう学生街では，朝まで飲み明かして騒いだりアルコールを全種類注文したり，といった話をよく聞きます．

(OG・東京大学修士 2 年　武藤奈月)

◀ 山にあるキャンパスには，日光浴をしているムッシューの銅像がありました．

▼ 卒業論文の口頭試問を終えて

編集後記

大好きな春がまた巡ってきました．先輩の佐藤さんから引き継ぎ，「フランス文学研究室 NEWS」の編集を担当することとなりました，玉田です．

創刊号が発刊されたときには，先輩方が何やら素晴らしいものを作ったという印象でしたし，畏れ多くも寄稿させていただいた第 2 号が出たときには，留学先のリヨンへわざわざ郵送してくれ，ひどく感動したのを覚えています．尊敬の眼差しで見つめていたそんな「NEWS」の仕事を，いつの間にか私が引き受けるとは．慣れない編集で先生方・先輩方には大変ご迷惑をお掛けしましたが，執筆を依頼した皆さんから私宛てに，続々と原稿の集まってくる喜び，そしてそれらに初めて目を通す際の高揚感を味わわせていただきました．編集冥利に尽きます．

本号の構成にあたり唯一困ったのは，4 コマ漫画を描きたいという人が見当たらなかったことです．そこで急遽発想を変え，新企画「トリコロール色見本」に取り組みました．同級生の女性陣に呼びかけ，青，白，赤から連想するエピソードを寄せてもらったのです．本来，新聞に 4 コマは付き物ですが，新しい紙面を楽しんでいただけましたら幸いです．

赤について寄せられた「飲み会で楽しげな人の色」は，殊に印象深いです．研究室の皆なら，くすりと笑って納得してくれることでしょう．仏文研究室の宴会では，アルコールの得意な人も苦手な人も，和気藹々と楽しんでいます．来年度のささやかな目標は，アブサンの酔狂を理由に，いつも遠慮して行かない二次会へ参加することです．

長くなりました．今後も，研究室の様子をより鮮やかにお届けできるよう，努めてまいります．　　(学部 4 年　玉田優花子)

フランス文学研究室ホームページ

http://www.sal.tohoku.ac.jp/French/index.html

「フランス文学研究室 NEWS」に関する，ご意見・ご要望は以下のところまでお願い致します．

TEL/FAX：022-795-5973

Email：hiver2homme7@gmail.com